

○按ズルニ此ヨリ後寛政元年三月嘉永六年十月重テ同令ノ發布アリ今之ヲ略ス、
〔明慶錄〕天保十三年六月廿二日水野越前守殿江伺之上申渡、

市中取締掛名主共

百姓町人共金銀之品相用申間敷心得違ニ而所持致居候分ハ其品早々金銀座へ差出引替可申旨去戌年中相觸候處今以銀喜世留其外金銀具之品所持致候もの有之哉ニ相聞不埒之事ニ候略○中若申渡候趣不相用隱置不差出族有之候は、早々申立候様可致候、

寅六月廿二日

〔閑田次筆四〕此ころ白石先醒の手簡を見るに、これも大きに煙草を好まれしよしにて、且仙臺の煙管を得て喜び贈られし古詩長篇あり、めづらしくてこゝに寫す、

戲謝洞巖老惠金烟管二十韻

相思千萬里、芳草既爲烟、遙謝琅玕贈、何酬錦段鮮、班々雙淚竹、艷々並頭蓮、鴛管長且細、螺杯小復圓、
彎如象鼻曲、翻若馬蹄翻、聊比繞朝策、何論武子錢、碧筩宜共飲、青簡豈須編、王衍曾揮麈、蘇卿本嚼齏、
趣同餐蔗境、狂似嗜茶顛、絕勝棋榔醉、要將桃李憐、丁香香自結、柳線々猶牽、朱焰龍脚燭、丹爐虎伏鉛、
飛灰金瑄內、擊節玉壺邊、流水歌幽雅、薰風和舜絃、帷中非借箸、陌上是遺鈿、不羨餐霞客、還懷服氣仙、
吐成玄圃霧、漱作白雲泉、嘗蓼心良苦、紐蘭佩可揖、微陽回黍谷、尺寶出藍田、因知蓬瀛侶、徒勞採藥船、
以上私加點て童蒙に便す、

〔兎園小説 十二集〕替婦殺賊

近頃年間○文政の事なり、武州忍領の邊へ、冬時に至れば、越後より來る替婦の三絃を弾じて、村々を巡りつゝ、米錢を乞ふ有けり、或冬忍領の長堤を薄暮に通過せるに、忽後より呼び掛くるものあり、替婦有○此間間即自ら吹く所の管頭ガシクビを指し、向くるに乘じ、替婦摸索し、我が烟草に火の通せざる